

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

でんとうてき

ぎょうじ

げいのう

伝統的な行事と芸能

たんごのせつく

端午の節供

新高総早倉矢井浅里笠
見梁社島敷掛原口庄岡
市市市町市町市町市



かん けい

ば しょ

関係のある場所

—



ぎょう じ

この行事について

「端午の節供（菖蒲の節供）」は、五節供のひとつです。もともと5日に限らず、月はじめの午の日とされていましたが、その後、5月5日に定着しました。5月は、雨が多く、病が流行りやすい悪月とされてきました。そこで、邪気を払うものとして菖蒲が使われるようになりました。菖蒲は、葉や根に独特の強い香りがあり、魔除けの力があると考えられ、屋根や玄関に飾ったり、お風呂に入れて菖蒲湯にしました。

江戸時代の武家社会では、これらの行事に使われていた菖蒲が尚武とかけられて、男の子の武運を祈る行事になったと伝えられています。また、武家社会に関係し、武家の家に男の子が生まれるとのほりあげて、祝ったこととあいまり、庶民の間で鯉や龍を描いた和紙をのぼりのようにあげて、子ども
の成長と出世を祈ったことが、鯉のぼりの始まりとされています。